



●地域において顕在化しつつある気候変動の影響や人口減少等の社会環境変化への『適応』に向けた多様なニーズに応える研究開発を、岐阜大学の環境科学分野と応用分野の幅広い連携によって推進する。  
 ●地域の行政・産業・市民の皆様、全国の関連研究コミュニティと力を合わせ、気候変動・人口減少に適応した22世紀型の流域圏の実現を、環境科学技術の側面から強力に推進する。



センター長 原田守啓  
(流域圏科学研究センター准教授)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



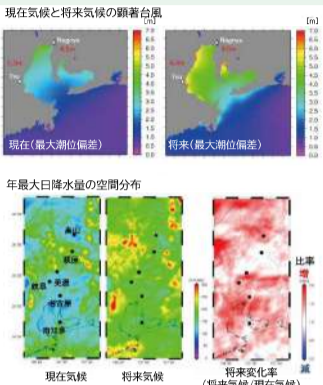
### 地域気候変動研究部門

気候変動予測情報に基づく地域の気候変動影響

台風・豪雨・渇水等の極端気象現象の将来予測



部門長:吉野 純  
(工学部社会基盤工学科准教授)



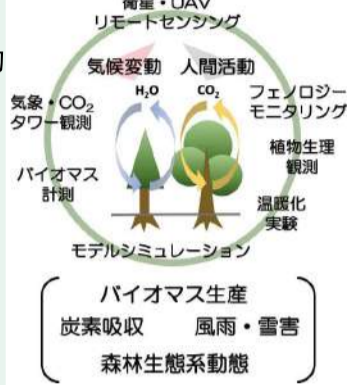
### 森林研究部門

森林による温室効果ガス吸収能とその変動予測

森林管理、林業分野における適応策の検討



部門長:村岡裕由  
(流域圏科学研究センター教授)



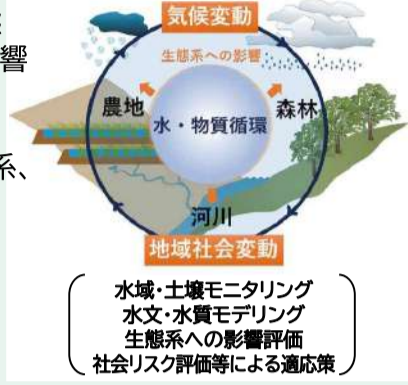
### 水環境研究部門

水資源や物質動態に対する温暖化影響の評価

河川・農地の生態系、生物種への影響と適応策



部門長:大西健夫  
(応用生物科学部生産環境科学課程准教授)



### 農業適応研究部門

岐阜県主要農産物への気候変動影響

気候変動適応策としての作物品種転換・育種等



部門長:松井 勤  
(応用生物科学部生産環境科学課程教授)

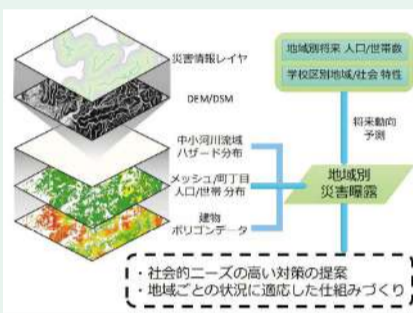


### 社会システム研究部門

気候変動・人口減少が地域経済、地域コミュニティに与える影響と適応策の提案



部門長:高木朗義  
(社会システム経営学環教授)

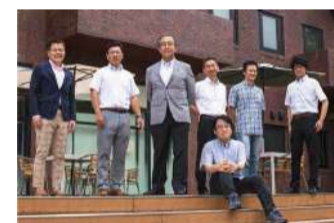


### 地域連携研究部門

地域への適応策の社会実装方法の研究  
行政機関との連携窓口として他研究部門と連携

部門長:野々村修一  
(地域環境変動適応研究センター特任教授)

- 地域気候変動研究部門 2名
- 森林研究部門 3名
- 水環境研究部門 7名
- 農業適応研究部門 2名
- 社会システム研究部門 4名
- 地域連携研究部門 1名



(2021.07時点)

## 主な研究プロジェクト

### 岐阜県気候変動適応センター事業(2020-)

#### 「岐阜県気候変動適応センター」を県と共同で運営

気候変動予測や影響評価に先駆的に取り組む岐阜大学と、地域における気候変動の適応を推進する岐阜県が連携し、「岐阜県気候変動適応センター」を令和2年4月に共同設置しました。大学と地方自治体による共同型設置形態や、地域ニーズに基づく気候変動影響評価の共同研究機能、適応推進に向けた人材育成機能を持つ適応センターの設置は全国初となります。当センターの活動を通じて、岐阜大学の社会貢献・地域貢献を強化するとともに、研究成果の社会実装を推進していきます。



センター設置に関する協定の締結式



岐阜県気候変動適応センター  
センター長 野々村修一

- 【主な取組】 共同研究 人材育成 普及啓発 技術支援 情報収集

**共同研究** 岐阜県が把握している地域のニーズと、岐阜大学の研究シーズが合致するテーマについて、年数件程度の共同研究を実施。研究成果について分かりやすく提供する取り組みを進めます。

#### 【2020年度の共同研究】

カキへの温暖化影響評価と適地マップ作成



担当:山田邦夫 教授

森林・中山間農業における雪害・風害リスクの将来予測



担当:斎藤 琢 准教授

洪水・土砂災害頻度の増加と人口減少の総合評価



担当:小山真紀 准教授

将来気候における岐阜県の台風や豪雨の温暖化影響評価



担当:吉野 純准教授

#### 【2021年度の共同研究】

豪雨災害の増加と都市における災害リスク分析  
担当:高木朗義 教授、小山真紀 准教授

クリ栽培への温暖化影響  
担当:山田邦夫 教授

ジャンボタニシによる水稻への影響と対策  
担当:伊藤健吾 准教授

ほか エアコン使用・熱中症に関する調査など



### 環境研究総合推進費 気候変動領域 水防災・農地・河川生態系・産業への複合的な気候変動影響の評価手法の開発と適応策の共創(2020-2022)

#### 地域の複合的な気候変動影響と適応策の研究

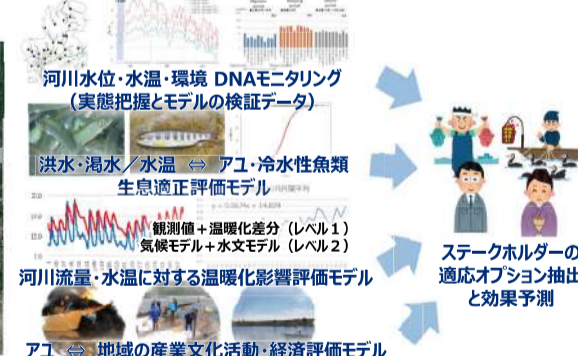
岐阜県水産研究所、(国研)土木研究所との3機関共同で、2つのサブテーマからなる研究課題に取り組んでいます。地域における適応の推進の取り組みはまだ始まったばかりであり、効果的な推進体制の構築が課題となっています。本研究を通じて、地方大学と地方自治体、ステークホルダーの協働によって適応を推進するモデルを提示してまいります。

代表:原田守啓 准教授

ST1 河川氾濫原の水災害リスク・農地継続性・生物多様性の総合評価手法の開発  
サブテーマリーダー:原田守啓 准教授

ST2

対象:長良川流域



JST『ムーンショット型研究開発事業/新たな目標検討のためのビジョン策定(ミレニア・プログラム)』『強靱な生態-社会共生体を実現するためのテクノロジーに関する調査研究』(2021)

調査研究チーム  
サブリーダー:村岡裕由 教授

RISTEX『科学技術イノベーション政策のための科学』研究開発プログラム『生態系サービスの見える化による住民参加型制度の実現可能性評価と政策形成過程への貢献』(2020-2023)

代表:乃田啓吾 准教授



### 文部科学省 気候変動適応技術社会実装プログラム SI-CAT (2015-2019)

#### 本センターの設置に至る前身となった研究プログラム

岐阜県と岐阜大学研究者グループが共同参画したこの取り組みは、全国的に高く評価され、行政と地域の研究者が密に協力して地域のステークホルダーも巻き込みながら気候変動適応に取り組む「岐阜モデル」が形成されました。

